

は し が き

本報告書は、メディア教育開発センターの研究プロジェクト「メディア教材のプロトタイプに関する研究開発」における研究成果の中から、特に、調査研究に関わるテーマを対象を絞って、まとめたものである。

当プロジェクトでは、次世代型メディア教材のプロトタイプの開発や、それを最適化するための評価研究等を行っているが、これらの活動を効果的に展開していく上で、開発すべき教材の方向性や、開発した教材への利用者の反響等についての調査研究は、欠かすことの出来ない要素の一つである。

高等教育機関におけるメディア環境や、必要とされるメディア教材の種類や内容について、当プロジェクトでは、センターが発足した平成9年度に、全国の高等教育機関（228機関）を対象として郵送調査を実施したが、(1)の「高等教育における教材の開発および開発支援環境に関する調査」はその結果をまとめたものである。また、同年に、当プロジェクトでは、「専門教育におけるメディア教材のニーズおよび開発状況」に関する二つの調査を、公募共同研究員と実施したが、(2)の「看護養成系学校におけるメディア環境、及び、メディア利用とメディア教材のニーズに関する調査結果」（全国の看護養成系学校600校を対象とした郵送・全数調査による）と(3)の「コンピュータリテラシー教育のあり方と教材に関する調査（全国の情報教育関連学部・83学部を対象とした郵送調査による）」は、それらの調査結果について、まとめたものである。

開発した教材の利用効果については、本センターの前身である放送教育開発センターの教材研究室で、平成7年度に開発した、「教師教育ビデオ教材」を対象として、2種の評価調査を実施した。(4)の「ビデオ教材〔理科〕〔環境〕〔英語〕の評価」と、(5)の「ビデオ教材〔物理Ⅰ〕〔環境教育 高校編〕」が、その評価調査の結果であり、これらはいずれも、公募研究員との研究成果をまとめたものである。

本センターでは、その研究開発の成果を、広く全国の高等教育機関に提供し、マルチメディアの利用促進を図ることを目的としている。当プロジェクトでも、その研究成果を、出来るだけ広範囲に提供しようと努めているが、特に、メディア教材のプロトタイプに関する研究開発については、その成果を、逐次、本センターのメディア教材開発事業の中に反映させながら、事業部で制作される各種教材の企画や内容の充実を図っている。

本報告書の調査結果については、それぞれ、これまでに事業部で開発した「教師教育教材シリーズ」や「メディア活用シリーズ」等の中に、その成果が生かされているところであるが、特に、看護系養成学校についての調査結果については、早速、その成果をもとに、看護教育についてのCD-ROM教材の企画を立案し、平成11年度のマルチメディア教材事業の一環として、新教材の開発を進めているところである。

高品質で、利用効果の高いメディア教材の開発は、その基盤に、ニーズや評価等についての緻密な調査研究があつて初めて、可能になるものともいえるだろう。当プロジェクトでは、より高品質で、利用価値の高いメディア教材の開発のために、その基盤ともなる、調査研究の分野についても、今後さらに、多角的な活動を展開していく予定である。

平成12年3月

プロジェクト主査

福井康雄